

# たまいたま 川柳



ツクツクボウシ

平成30年 (2018年)

9月号 (No.706)

日川協加盟

## 巻頭言

暦よごころよ

願法みつる

歴史を考えると、よくよく考えると、文字と暦がなければ記録が出来ないのだから、天文運行や季節の変化に立脚した暦の発明は、人類にとって偉大な叡智であり事業であったと想像できる。その智慧は、今やITに代わったか。

あれこれ調べる内に、日本人の生き方に直結する現行歴が、なんとも季節感から遊離していることに気が付く。

現在、世界の暦には太陽暦、太陰暦、太陰太陽暦があるそう。日本の官暦は、推古天皇時代の六〇四年に導入された中国の農暦を基本とする太陰太陽暦だそうで、季節の移り変わりに合致した自然暦、たといわれる。

現在の太陽暦への改暦は、明治六年からであり、前年に発せられた「改暦の詔」によれば、旧暦の運用は不便であり、世界の趨勢にも遅れるとの趣旨だとか。つまりは文明開化の波に乗り遅れるな・と言うことらしいが、強引さが感じられる。日本人はお上の定めには従順である。

このため、人々は慣れ親しんだ旧暦のセンスの中、西洋的な暦の生活を強いられることになる。だから旧暦に馴染んだ正月や五節句、盆、そして神社仏閣の諸行事も、異なる季節感のままに行われる。七曜表に各月旧暦名称や暦注や選日が注記され、大安や友引が縁起とされている時代だ。

川柳三神の忌日は、旧暦・新暦？不勉強の至り。

## 日日是好

願法みつる

不可解を神の数式などと逃げ

万物を生むに一先ず無に還る

上善の水焼酎を割るが善し

虚心には遠い世間の耳と舌

敗残のココロを知って引くイクサ